

JB- HABIS

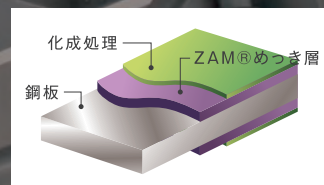
高耐食鋼
検査路
ジェイビー・ハービス

JB-HABISとは

高耐食性鋼材ZAM®を材料として製作した
橋梁用検査路です。

※「ZAM®」は、日本製鉄株式会社の登録商標です。

※「ZAM®」は、日本製鉄株式会社が開発した溶融亜鉛・アルミニウム(6%)・マグネシウム(3%)合金めっき鋼板の商品名です。



JB-HABISの特徴 (溶融亜鉛めっき検査路との比較)

優れた耐食性 **耐食性2倍以上!**

一般部の耐食性

ZAM®は、耐食性が溶融亜鉛めっきの**6倍以上**であり、塩害や亜硫酸ガスによる腐食にも強い材料です。

亜鉛めっきの表面保護被膜

粗く付着性に乏しい表面保護被膜のため、
腐食因子が透過しめっきの腐食が進行。



ZAM®の表面保護被膜

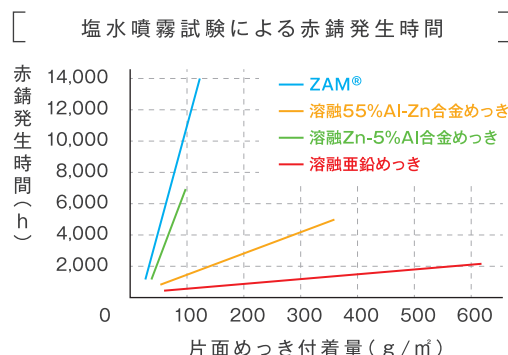
緻密で付着性が高いため、腐食因子の透過を
抑制し長時間にわたり高い耐食性を保持。



被膜付着量1/3で
海岸地帯でも抜群の耐食性。

JB-HABISの被膜付着量は175g/㎡。
溶融亜鉛めっき検査路の被膜付着量HDZ55(550g/㎡)の
1/3程度であるが、耐食性は溶融亜鉛めっき検査路の
2倍以上に向上。

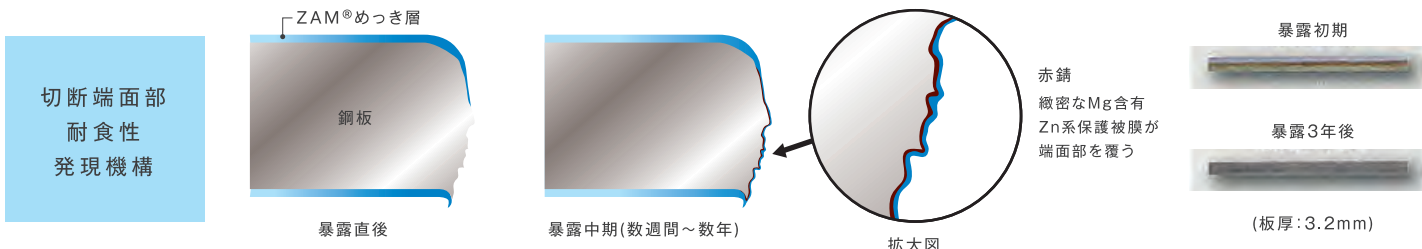
田園地帯・都市工業地帯における対応年数**100年以上**
(海岸地帯における耐用年数50年以上)



切断端面部の耐食性

緻密な亜鉛系保護被膜で耐食性アップ。

ZAM®の切断端面部は、犠牲防食作用によりめっき層から溶け出したMgを含む緻密な亜鉛系保護被膜で覆われるため、
一般部と同様に高い耐食性を保持します。



犠牲防食作用で錆対策万全。 ※外観保持及び犠牲防食作用補助のため、板厚4.5mm以上の歩廊桁端部と端横支材の切断面及び支柱上面の切断面にジंक系塗料を塗布します。

一般的に切断端面部は初期に白錆が発生し、その後赤錆に変化します。

JB-HABISでは犠牲防食作用が働き、2～5年程度(環境条件による)で緻密な安定したZAM®保護被膜で覆われます。

接合部の耐食性(異種金属接触腐食対策)

接合部のボルト類にはステンレスボルト(緩み止めナット使用)を使用。
ZAM®との異種金属接触腐食の抑制処理を施しています。



銅板: ZAM(K35ZG)
ボルト: SUS304



銅板: ZAM(K35ZG)
ボルト: SUS304
シオメット処理

様々な現場に導入していただけます

新設工事

取替工事

下部工検査路

高い出来形精度

ひずみの発生を抑える

熱影響によるひずみが生じないため、高い出来形精度を実現。

☑ プレめっきが施されており防錆処理（後めっき）不要 ☑ ボルト接合のみで組立てるため溶接不要



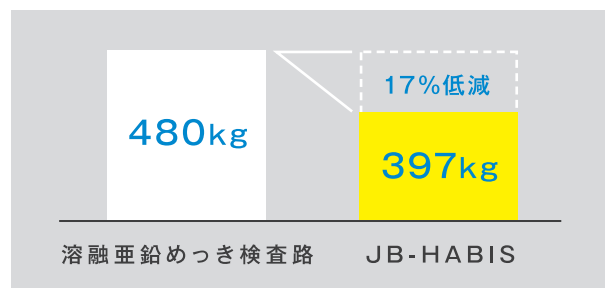
製作時の熱影響によるひずみの発生がないため、出来形精度の高い製品を提供できます。

軽量設計

重量83%に低減

既設の溶融亜鉛めっき検査路からの
取替え（既設の受台を使用）も可能です。

横桁間隔
6mタイプの
重量比較



ライフサイクルコストが抑えられる

50%程度に削減

耐食性と軽量化によりコストを抑える。

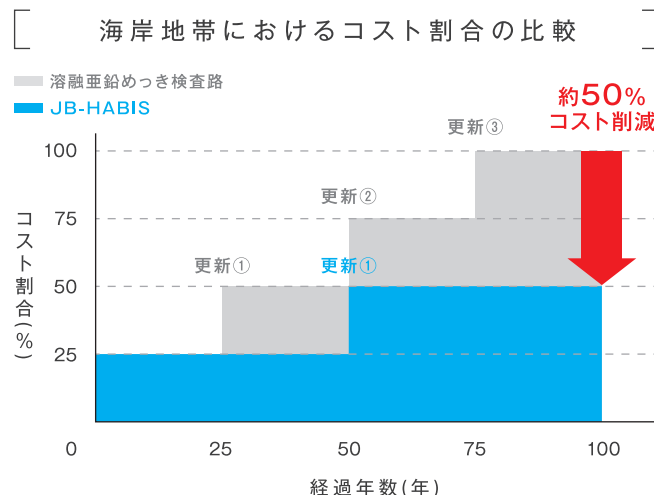
初期コスト（～25年）

製品費は溶融亜鉛めっき検査路と同等程度となり
現場施工費は重量の軽量化に伴い低減されます。

更新によるライフサイクルコスト（25～100年）

溶融亜鉛めっき検査路の耐用年数は25年程度のため
3回の更新が必要です。対して、**JB-HABISの更新回数は1回**のため**ライフサイクルコストが50%程度に削減**されます。

※都市工業地帯及び田園地帯においては更新が不要です。



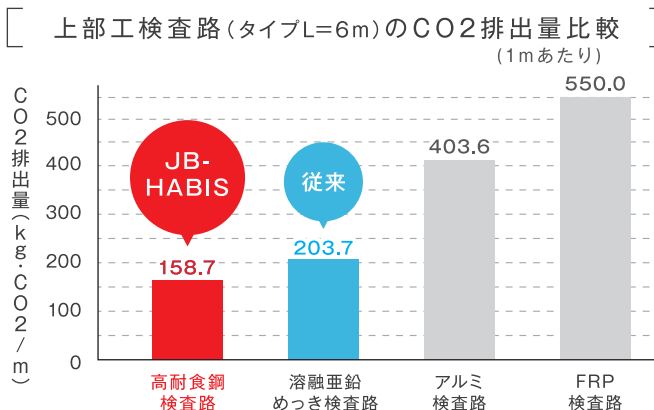
カーボンニュートラルへの取り組み

22%程度削減

従来の溶融亜鉛めっき検査路に対して
22%のGHG（温室効果ガス）を削減できます。

（World Auto Steel公表データを基に試算）

※材料製造および防錆処理に伴う排出量



安全性確認試験



歩廊桁および手摺りに対しNEXCO試験方法に準拠した性能確認試験および衝撃載荷試験を実施し、十分な安全性を確認。また、歩廊面には滑り止め加工を施しています。

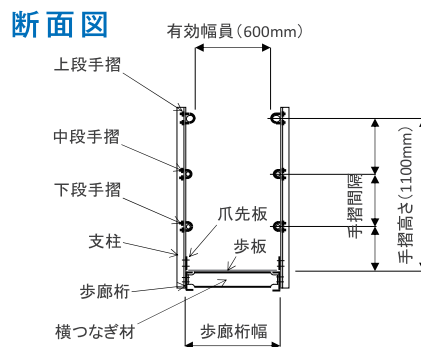
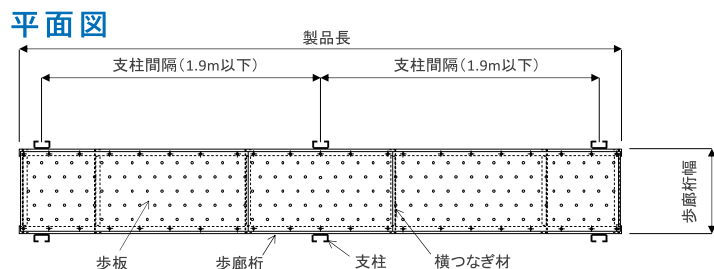
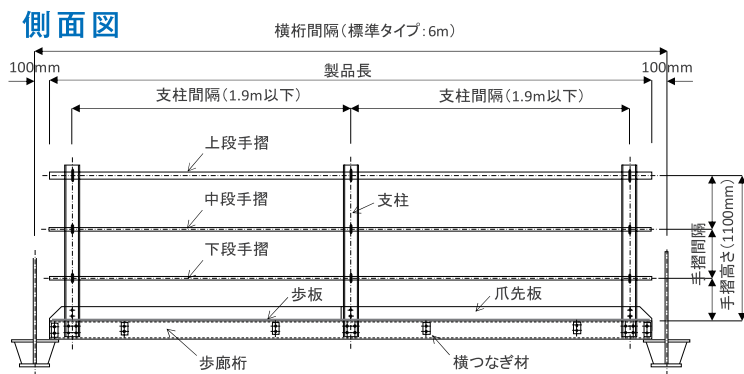
暴露試験

鴨川暴露試験場 (土木研究センター)

千葉県鴨川市一般国道128号坂下高架橋下
太平洋の海岸線より150mの極めて厳しい環境下で、
耐食性の確認試験を実施しています。



概略図



設計条件

歩廊桁の設計活荷重:3.50kN/m²
手摺の設計荷重
・鉛直方向:0.59 kN/m
・水平方向:0.39 kN/m
最小有効幅員:600mm
最低手摺り高:1,100mm
最大支柱間隔:1,900mm

※溶融亜鉛めっき検査路の同タイプと比較して歩廊桁高が25~85mm高くなります。

※ JB-HABIS(ジェイビー・ハービス):Japan Bridge(日本橋梁)、High protection(高い保護)、Against corrosion(耐食性)、Bridge(橋梁)、Inspection(検査)、Scaffold(足場)
※ 横桁間隔11.0mまでを対象としています。 ※ 本仕様は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

 日本橋梁株式会社

ホームページは
こちらから
▶▶▶



紹介動画は
こちらから
▶▶▶



2023年11月6日更新

神戸事業所(事業開発グループ)

〒650-0023 兵庫県神戸市中央区栄町通1-2-7(大同生命神戸ビル)

TEL

078-(771)-5260

FAX

078-(771)-5259